

月形町長 上 坂 隆 一 様

月形町地域拠点施設整備等に係る答申について

令和元年6月27日付け月企企号をもって諮問のありました事項について、月形町地域拠点施設整備等審議会ではこれまで、2回の視察研修と8回の審議会を開催してきました。

この約9ヶ月の期間、忌憚のない議論を行い、審議会委員から出された多くの意見を集約、そして合意形成を行いまとめましたので、別紙のとおり意見を付して答申いたします。

令和2年2月19日

月形町地域拠点施設整備等審議会

会 長 福 井 誠

副会長 土 井 町 子

香 西 雅 之

中 村 三賀子

齋 藤 貴 子

西 山 雅 俊

廣 野 和 男

矢 原 雄 平

刈 田 廣 美

松 山 俊 子

熊 倉 な み

高 畠 康 典

本 多 大 輔

鳥 潟 慎太郎

岸 上 希 央

谷 口 尚 弘

生 川 幸 伸

北 嶋 雅 見

山 田 啓 一

梅 木 悠 太

記

1 地域拠点施設の整備について

J R 札沼線の一部区間廃止により、代替バスの運行をはじめとする新たな公共交通ネットワークの構築に伴い、新たに交通ターミナル機能を備えた町民が気軽に立ち寄り交流できる拠点施設の整備が必要です。

地域拠点施設の整備コンセプトを『みんなが立ち寄り集う地域の安心と賑わいの空間（拠点）』とし、町民の交流と生活の利便性を高める施設とします。

拠点施設の建設地を月形小学校敷地としました。整備にあたっては、教育関係機関等と十分な協議と理解を得なければなりません。

拠点施設の主要機能として、①バスターミナル機能②交流機能③図書館機能を設けることとします。そして、町民の交流や賑わいを創出するため、施設利用を促進するための取り組みも重要です。

なお、建設費をはじめ、将来にわたる維持費等の町の財政負担も考慮しなければなりません。

2 皆楽公園等周辺施設整備について

皆楽公園等周辺施設（以下「皆楽公園エリア」という）は、旧石狩川を利用した親水公園や温泉をはじめとする観光施設が集積していますが、施設の老朽化が進み利便性の低下や維持管理コストの増加が見られるため、改善に向けた対策が必要です。

皆楽公園エリアは、月形町の観光と交流の象徴として、町民誰もが来訪者に対して『自慢』できる観光拠点施設を目指します。また、誰もが楽しい「とき」が過ごせる空間づくりを目指します。

主なターゲットを『ファミリー』とし、皆楽公園エリアの特性を活かした再整備を行い利用者満足度の向上を図ります。

皆楽公園エリアを6つのゾーンに分け、町民や観光客のニーズを踏まえ、老朽化した施設等を中心に皆楽公園全体の再整備が必要です。その中でも①温泉②宿泊施設③キャンプ場の3つを重点施設として位置づけ、利用者ニーズに沿った施設の改修と提供するサービスの充実を図ります。ただし、整備に要する財源の確保や、今後の維持管理を見据えた行政コストの平準化等も考慮し、計画的に整備していかなければなりません。

重点施設を中心に、老朽化した施設は利便性と安全性を確保し、各ゾーンの機能とそれに見合った規模への見直しを行うとともに、集客が見込める施設については機能強化を図り、エリア一体としての賑わいの創出を図ります。

管理運営の体制としては、「公設民営」が望ましいと考えます。また、観光拠点化を

目指す上では、地域住民をはじめ町内主要団体との連携により、町全体として観光事業を推進する必要があります。

3 道の駅の整備について

月形町周辺で道の駅の整備が進んでいる中、審議会においても道の駅の整備について審議を行いました。近年の道の駅は、道路利用者に対する休憩や情報発信機能はもちろんのこと、商業的要素も含む地域の特色を活かした地域連携機能が求められています。

こうした現状も踏まえ、施設の機能や維持管理コストなどの運営面も考慮し、持続可能な施設としなければなりません。

月形町においても、道の駅は新たな交流の創出、観光振興とともに地域経済の活性化に期待できると考えます。しかし審議会としては、道の駅整備の是非については結論づけることができませんでした。道の駅の整備を具現化していくためには、運営主体を明確にし、管理運営の担い手とともに、建設場所や地域連携機能等、近郊の道の駅との差別化をより具体的に検討していかなければなりません。

4 最後に

今回、審議会で議論した事項は、月形町の今後のまちづくり、とりわけ町の「ランドデザイン」に大きく関わってくるものと考えます。

つきましては、地域の賑わいと交流を創出するための拠点化づくりと観光拠点の再整備等については、この審議結果を基に住民生活の利便性向上と地域経済の活性化を図るための整備方針を速やかに定め、月形町の新たなまちづくりに向かって本事業が着実に遂行されていくことに期待します。

月形町地域拠点施設整備等に係る付帯意見

1 地域拠点施設の整備について

(1) 整備コンセプト

『みんなが立ち寄り集う地域の安心と賑わいの空間（拠点）』とし、以下の目的を達成できる施設を目指します。

- ・多世代の町民が気軽に『集い・憩い・交流』が生まれる場所とする。
- ・地域公共交通の結節点として、住民生活の利便性の向上を図る。
- ・町の「顔」として、月形町のPRや地域情報の発信力を高める。
- ・子供たちが安心して遊べる場所とする。
- ・災害時に対応し、安心・安全に利用できる場所とする。

(2) 拠点施設の建設地について

地域拠点施設の建設地を月形小学校敷地とした理由は次のとおりです。

- ・国道と道道の交点で施設の視認性が高い。
- ・公共交通の結節点として機能的な場所である。
- ・公共用地であることから整備に要する費用を抑制できる。

施設整備にあたっては、教育関係機関、保護者、地域住民等に対し十分な説明と理解を得ることとし、拠点施設と小学校との管理区分の明確化や安全性の確保に努めることを要望します。

また、学校教育環境の整備（小中一貫校など）や道の駅の整備も踏まえ、多方面から検討し判断する必要があります。

(3) 拠点施設の機能について

新たな公共交通ネットワークの構築に伴うバスターミナルの整備とともに、町民が気軽に立ち寄り、集まりやすい地域の交流拠点施設として次のような機能を設けることとします。

なお、建設スペースや建設費、維持管理費などの財政負担も考慮しなければならないことから、設計段階において必要な機能を十分に精査する必要があります。

[主要機能]

○バスターミナル機能

- ・バス発着場
- ・待合所
- ・トイレ

○交流機能

- ・子供の遊び場
- ・フリースペース（休憩、コミュニティ活動、学習、ワーキング）
- ・情報コーナー（町のPR、観光、地域情報など）
- ・レンタサイクル
- ・レンタルルーム（会議、サロン活動、研修、講座、教室等）
- ・フリーWi-Fi
- ・飲食スペース（カフェ、物販など）
- ・トイレ（バスターミナル共有）

○図書館

- ・閲覧スペース（レファレンス室含む）
- ・収蔵庫（作業スペース含む）
- ・事務室

○その他

- ・施設管理者用事務室（利用受付窓口も含む）
- ・書庫、物品庫
- ・駐車場、駐輪場（共有）
- ・防災・災害対策

[建物イメージ]

- ・オープンな作り（見える部屋）
- ・平屋建て
- ・公共施設らしくない洗練されたデザイン
- ・『公共施設＝コンクリート造』の払拭

[利用方法、ソフト事業の取り組み]

- ・各種学習塾（教室含む）
- ・福祉施設との連携事業
- ・スポーツ、レクリエーション事業
- ・コミュニティ活動

[その他]

- ・拠点施設における商業施設の一体的整備については、町が決定する拠点施設の整備方針に基づき、町と関係機関が別に協議することが望ましい。
- ・拠点施設に道の駅を整備する計画（想定）となった場合、バスターミナルとしては必要最小限の規模、機能とする。また、トイレ等の共有できる設備は道の駅を想定した規模で計画し、その他施設を段階的に整備する。
- ・改修や増改築が比較的容易にでき、取り壊しも含め将来的に大きな負担のならないような建物とする。

・公共交通の運行状況等がスマホアプリで情報が得られるシステムの構築や公共施設の利用状況やイベント、コミュニティ活動等の情報を取得できる仕組みづくりも検討する。

・バスターミナルはバス停、時刻表、待合スペース、トイレ等、必要最小限の機能とする。

・町特産品等の販売については人員配置などの問題や施設全体の管理方法に関連するため、実施にあたっては運営面についても十分検討する。

・拠点施設を観光PRのサテライト施設として位置づけ、観光や皆楽公園エリアの情報発信機能を整備するとともに、商工事業者等とのソフト面での連携を図るなど、皆楽公園エリアへの誘導を行い観光客の町内回遊を促進する。

・地域拠点施設が地域の交流や経済活動、コミュニティ活動の核となるには、地域住民をはじめ、JA、商工会等が主体的に行動し、官民一体の拠点化づくりと、まちづくり体制の構築が重要である。

2 皆楽公園等周辺施設の整備について

(1) 皆楽公園エリアの現状と課題

皆楽公園等周辺施設（以下、「皆楽公園エリア」という）には、旧石狩川を利用した皆楽公園があり豊かな自然を感じることができます。

一方、その周辺には様々な施設が集積しているものの、施設のデザインや外観は統一性に欠け、施設の機能や能力を十分に発揮できていないと考えます。

主要施設である温泉や宿泊施設は、建築時期や設置目的、機能の違いから、施設の一体性がなく決して利便性の高い施設とは言えません。

また、国道275号からの入り口は視認性が低く、皆楽公園エリアへ続くアプローチ道路には景観を阻害するような看板や未利用の建築物等があり、各施設への誘導も不十分な状況です。

(2) 皆楽公園等周辺施設の目指す姿

皆楽公園エリアは、町民はもとより町外からの観光客が多く訪れる場所という現状を踏まえ、町の観光拠点として、より一層の観光誘客と観光消費が拡大できる可能性があると考えます。

よって、自然、水辺空間、キャンプ場、温泉、宿泊施設、レクリエーション施設等が集約されているこのエリアを、月形町の観光と交流の象徴として、町民誰もが来訪者に対して自慢できる場所とします。

【再整備へのキーワード】

- ・キャンプ場利用など、非日常を体験（体感）出来る場所

- ・町外の人に自慢できる場所
- ・利用者の満足度アップ

(3) 皆楽公園等周辺施設の再整備に向けた戦略

皆楽公園エリアに町民が日常的に訪れ、誰もが楽しい「とき」を過ごすことのできる空間であるとともに、観光客にとっても訪れてみたいと思う場所を目指します。

主なターゲットを「ファミリー」としつつ、温泉やキャンプ場など、施設ごとにターゲットを設定し、それぞれの施設の特徴に合ったサービスの提供を図って行く必要があります。また、細かい差別化と多様な取り組みを積み上げて、皆楽公園エリアの独自性と魅力的な「とき」づくりのための再整備を進め、利用者満足度の向上を図ります。

そして、将来的にはインバウンドへの対応も視野に入れた観光プログラムの開発や受け入れ体制の構築を目指します。

【ターゲット】

- ・温泉：女性、ファミリー
- ・宿泊施設：ビジネス利用
- ・キャンプ場：ファミリー、キャンパー

【再整備のコンセプト】

- ・温泉：休憩スペースや食事、売店を充実させ、「ゆったり・くつろぎ」の空間として、入浴だけではなく「月形温泉ゆりかご」に行くことが目的となるよう、滞在時間が楽しめる施設とする。
- ・宿泊施設：ビジネスや合宿等の利用者をターゲットに「泊まる」をメインとしたサービスの提供と客室等の改修、管理運営の効率化を図る。
- ・キャンプ場：皆楽公園の特徴と立地条件を活かし、キャンプエリア及び関連施設・設備の拡充により、新規ユーザーの開拓とリピーターの確保を目指す。

(4) 皆楽公園等周辺施設の具体的な整備方針

皆楽公園エリアを6つのゾーンに区分し、それぞれの現状や課題、町民や観光客のニーズを踏まえ、老朽化した施設の改修を中心に皆楽公園エリア全体の再整備が必要です。その中でも、温泉、宿泊施設、キャンプ場の3つを重点施設として位置づけ、利用者ニーズに沿った施設整備と、各施設の効果的な活用、提供するサービスの充実など、ハードとソフト両面から観光誘客、観光消費拡大につながる取り組みを図ります。

す。

なお、長期的な視点で行政コストの平準化も考慮し、老朽化した施設や設備を中心に施設の改修や建て替え、集約化（廃止も含む）により、維持管理費用の縮減を図る必要があります。

ただし、整備に係る事業費が大きいことから、改修等にあたっては優先順位を定め、管理運営事業者の意見を取り入れるなど、整備と運営が一体となって再整備に向かっていくことを要望します。

（５）各施設の整備について

①機能と魅力を見直した施設群ゾーン

温泉をはじめとする各施設が連続性を感じ、周辺景観に馴染むように施設の色彩を統一し、落ち着いた雰囲気を感じられる空間とします。

老朽化した施設や設備の改修（建て替えも含む）、既存施設の機能を見直すことで、施設全体の機能強化と維持管理コストの縮減を図ります。また、施設改修等によるサービスの向上と利用者ニーズへの対応により事業収益の改善を図る必要があります。そして、費用対効果の低い部門については、効率性を重視した形態への転換や事業の整理も必要です。

- ・温泉の無料休憩所のリニューアル（女性専用休憩スペース等の整備）
- ・温泉の売店のリニューアルと飲食コーナーの増設
- ・宿泊施設（客室）のリニューアル
- ・水辺の家のリニューアル（皆楽公園エリアの情報発信機能）

②高揚感を高めるエントランスゾーン

エントランスゾーン（国道２７５号交差点）は、皆楽公園へ訪れる人が皆楽公園に近づくにつれ、高揚感を得ることができ、おもてなしを感じられる空間づくりを目指します。よって、形状や色彩が統一されていないサイン等は、撤去もしくはデザインを統一するなどして景観整備を図ることが必要です。

また、アプローチ道路や花壇の改修、植栽、公園サインを新たに設置するなどして、皆楽公園エリア入口の視認性を高める必要があります。

③豊かな自然を体感し楽しむキャンプゾーン

皆楽公園の大きな特徴である、石狩川の河跡湖の水辺空間や河畔林等を活かした親水エリアのキャンプ場関連施設を改修し、キャンプゾーンにおける利用者の安全と利便性の向上を図ります。

- ・コテージの増設（通年利用の検討）
- ・トイレ、炊事場などの衛生設備の充実
- ・キャンプエリアの拡張（初心者から上級者、ソロキャンプ等のテーマ別ゾーンの

設定)

④想像力を育むキッズパークゾーン

キッズパークゾーンについては、老朽化した遊具の計画的な更新と安全性の確保を図ります。

一方、皆楽公園内の既存の遊び場や遊具等の再整備にこだわらず、子供たちが自由に楽しく、安全に遊ぶことができる場所を新たに整備するという考えの一つです。

また、遊び場や遊具等の整備方法やデザインは地域住民との協働による計画づくりと整備を検討願います。

- ・旧はな工房前の芝生広場の活用
- ・つち工房未利用地の活用
- ・水遊びゾーンの新設
- ・通年、全天候型施設の整備

⑤隣接する建物と連動させながら将来的に魅力付けを図るゾーン

農業体験施設「つち工房」は、農業体験エリアとして位置づけ、月形町の農産物のPRや都市と農村の交流施設として再整備することを望みます。また、未利用地は芝生広場とすることで、繁忙期に混雑している既存のキャンプゾーンと使い方をすみ分けし、新たなアウトドア体験エリアとしての整備も可能と考えます。

みのり工房については、農産物の加工研究や商工業、農業団体等の利用を促進するとともに、老朽化した設備の改修等を図る必要があります。

- ・グランピングゾーンの新設
- ・デイキャンプゾーンの新設
- ・芝生広場

⑥その他皆楽公園エリアへの来訪や滞在、再訪を促す仕組み

皆楽公園エリア全体に関するニーズに対応することで利便性を向上させ、施設全体の魅力向上を図るため、フリーW i f i の設置や今後、更に増加することが予想される外国人旅行者に対応するための多言語対応等の整備を図ります。

また、皆楽公園エリアの来訪者の行動範囲を広げてもらうための取り組みとして、情報発信機能の充実やサインの整備、また商工事業者等とのソフト面での連携など、市街地中心部への誘導を行い観光客の町内回遊を促進する取り組みが必要です。

(6) 皆楽公園等周辺施設の管理運営体制と経営の改善について

皆楽公園エリアについては、町の観光拠点として施設整備を行政が行い、その後の管理運営を民間事業者が行う「公設民営」が望ましいと考えます。

また、今後の観光拠点づくりを行っていくうえで、地域住民をはじめ、J A、商工会、観光協会等が主体的に行動し、行政に頼らない観光事業の推進、運営体制の構築が必要不可欠です。

- ・ 地域DMO創設の検討
- ・ 観光振興の担い手の育成

3 道の駅の整備について

(1) 現状と課題

道の駅は近年、沿道地域の文化、歴史、名所、特産物を活用し、多様で個性豊かなサービスと、地域の活性化を図る施設として、月形町周辺地域においても整備が進んでいます。

これまで、道の駅の整備については具体的な協議や計画はありませんでしたが、町議会や町民からも整備を求める声があることを踏まえ審議会として協議を行って参りました。

道の駅の機能や役割は地域を支えるさまざまな機能も担っており、地域活性化や地域連携、地域防災の拠点など、地域ニーズによって多様化しています。

こうした現状を踏まえ、単なる「ハコモノ」整備に終わることなく、設置の目的はもちんのこと、建設地や機能、そして維持管理コストや運営体制についても十分精査し、綿密な計画と戦略のもと、持続可能な施設としなければなりません。

(2) 必要性について

道の駅は、道路利用者や来訪者に対する休息の場や情報収集と情報発信はもちろんのこと、月形町の知名度向上と、町の魅力を広くアピールする場として活用することができます。

そして、新たな交流の創出や観光誘客、観光消費の拡大による地域経済の活性化につながる拠点としても期待できます。

一方、近隣の道の駅との差別化を図ることが必要であり、地域性と特色ある施設として、年間を通して安定的に運営できる仕組みづくりが重要です。

については、道の駅の整備にあたって、建設地や施設の規模、機能、そして管理・運営の担い手も含めて、地域住民や民間企業などを交え、より具体的な検討を行った上で、道の駅整備の是非を判断することを要望します。

(3) 整備（建設）場所について

月形町における道の駅整備候補地については、道路利用者の休憩施設としての役割を担うことを基本に、地域コミュニティの活性化や観光振興など、その機能が十分発揮できる場所を選定しなければなりません。

よって、道の駅の目的、機能や規模、一番重要な運営主体を明確にしたうえで、各公共施設の再編、集約化、拠点施設や皆楽公園の整備等を総合的に検討し、最も効果的な場所を選定する必要があります。

(4) 地域連携機能

道の駅は、道路利用者へのサービスを中心とした休憩施設として整備されてきましたが、近年は農業、観光、文化、福祉、防災など、地域の個性や魅力を活かした新たなまちづくりの拠点として整備されています。

月形町においては、地域の特性や設置の目的、コンセプト等を明確にしたうえで、住民サービスや地域の交流を重視した施設整備と町外からの観光誘客や観光消費の拡大を目的とした施設整備の両方について検討することを要望します。

また、建設場所と同様に、目的や規模、機能については管理運営事業者とともに検討し、具体化することが望ましいと考えます。

[想定される機能や設備]

バスターミナル、図書館、商業スペース、集会・会議スペース、子供の遊び場、農畜産物直売所、遊具施設、特産品販売、レストラン、カフェ、防災・災害対策機能、屋外広場など

4 各事業の遂行にあたって

今回、審議会で議論した事項は、月形町の未来にとっても非常に重要な内容であり、今まで以上に知恵と労力が必要となります。

各事業を確実に実行していくためには、地域住民の参画も重要であります。行政の実行力が重要であります。

については、専任部署やプロジェクトチーム等を設置するなど、確実に各事業が実行できるような組織体制の強化を要望します。

月形町地域拠点施設整備等審議会委員名簿

委員区分	所属等	氏名
条例第3条第2項の 1号委員 ※町の区域内の公共 的団体及び関係機関 の会員又は職員	月形商工会青年部 副部長	香西 雅之
	月形商工会女性部 副部長	土井 町子
	月形町農業協同組合 専務理事	福井 誠
	月形町農業協同組合女性部 部長	中村 三賀子
	社会福祉法人 月形町社会福祉協議会 事務局主任	齋藤 貴子
	月形町老人クラブ連合会 会長	西山 雅俊
	月形観光協会 会長	廣野 和男
	月形町校長会 会長 (月形小学校 校長)	矢原 雄平
	月形町PTA連合会 (月形小学校 PTA)	刈田 廣美
	月形町赤十字奉仕団 委員長	松山 俊子
	NPO 法人 コミュニティワーク 研究実践センター 事務員	熊倉 なみ
	市北行政区 理事	高畠 康典
月形刑務所 看守部長	本多 大輔	
社会福祉法人 札親会つきがた友朋の丘	鳥潟 慎太郎	
条例第3条第2項の 2号委員 ※識見を有する者	月形町教育委員会 教育委員	岸上 希央
	北海道科学大学 工学部 建築学科 教授	谷口 尚弘
	公益社団法人 北海道観光振興機構 地域支援本部 地域観光部長	生川 幸伸
	株式会社 道銀地域総合研究所 地域戦略研究部 業務部長	北嶋 雅見
条例第3条第2項の 3号委員 ※公募による者	農業	山田 啓一
	会社員	梅木 悠太